Lightboxはユーザが現在のページからの移動が必要なく、イメージのより大きいサイズを見ることができ、また、簡単なスライドショーを表示できます。 また、暗い背景イメージをかぶせページを薄暗くすることで、大きいサイズで見られるイメージを強調するのに役立ちます。

**Lightbox JS** は画像を拡大表示させる便利なスクリプトです。

ただ、ウィンドウサイズよりも大きな画像を表示したとき、その画像がはみ出します。そこで以下の内容について改善したスクリプトを大谷さんが作成されました。

(基本動作は Lightbox JS をベースにしていますが、スクリプト完全オリジナル)

* ウィンドウサイズよりも大きな画像を表示した際に、画像の拡大ができます。
* 表示画像のサイズと表示位置がリアルタイムでウィンドウサイズに追従します。
* 効果画像を貼付けることができます。
* マウスホイールで画像の拡大率を変更することができます。
* 拡大した画像はマウスでドラッグできます。

【大谷さんからのメール】

Lightbox Plus では全部内部で完結するよう、ひとつのファイルでイベント処理・ブラウザ判定・アニメーション処理なども行っているためぱっと見、それなりに煩雑になっています。

235 行目付近にある

function Lightbox(option)

からが lightbox の本体にあたる部分です。

それより上の部分はイベントを処理したりするツール的なものです。

lightbox 自体も大きな関数になっていますが、主に

・初期化

・イメージのサイズ処理

・イベント処理

・アニメーション処理　　に分かれています。

メインの処理は 842 行目付近にある

\_show : function(num)　　になります。

ここでクリックされた num 番目 (ページ内の最初のイメージが 0 ) のイメージを lightbox で表示します。

495 行目付近にある

\_set\_photo\_size : function()

では現在ターゲットとなっているイメージのサイズを計算しています。

ウィンドウのサイズやアニメーションの状態などを考慮してサイズを決定しています。

以上、ご参考になれば幸いです。　　　　　大谷